

志願者アンケートより第一志望ではない志願者における 志望大学選択に関する特徴を探る

大塚 智子 (高知大学)

高知大学志願者を「第一志望者」と「第一志望ではない者」間で比較することにより、第一志望ではない志願者の志望大学選択に関する特徴を明らかにした。結果より、第一志望ではない者は「進学する大学を選ぶ際に入試方法・難易度を重視し、情報は進学サイトより得るが高知大学の情報は第一志望者ほど得ておらず、出願大学は教員に相談して決定する。学問内容は重視するが学びの詳細は第一志望者ほど重視せず、オープンキャンパスには半数近くが参加しない」ことがわかった。要因として一般選抜の過密な出願日程の影響が推察される。また第一志望ではない者は、志望する学部であれば大学はどこでも良いなど大学選択への関心が薄い可能性も示唆された。

キーワード：大学志望度、志願者アンケート、志望大学選択、大学進学

1 はじめに

1.1 大学進学動機の希薄化

大学進学率の上昇に伴い、高校生にとって大学に進学することは特別なことではなく、あたりまえの範疇となった。しかし一方で「何のために大学に行くのか?」「大学で何を学びたいのか?」については、明確な答えを持たず漠然と大学進学を目指す高校生が少なからず存在することも、相談会等での聞き取り等より把握している。大学ではこうした高校生が一定数入学することも想定しており、入学後の動向について懸念すべき事項となっている。

1.2 大学志望度・本意度と入学後のリスク

ベネッセ教育総合研究所の調査によると「転学したい(他の大学に入りなおしたい)」と思ったことのある大学1年生は全体の4割、「退学したい」は2割弱存在する(樋口, 2013)。では、彼らはいかなる理由で他大学への転学・退学を考えるのか。転学意向の理由としては、目指す第一志望の大学に入れなかった不本意感、第一志望が諦めきれないという悔しさが顕著である。一方、退学意向については、大学の志望順位との関係は見られず、むしろ「大学で学ぶより別にやりたいことがある」「大学に行く意味が感じられない」等、彼らのモチベーションが必ずしも最初から大学への学びに向かっていなかった状況がうかがわれる(樋口, 2013)。つまり、入学した大学が第一志望ではなかった者やそもそも大学への進学を希望していなかった者は、転学・退学のリスクを抱えていると言える。

大学志望度と入学後のGPAの関係について、雨森は「第一志望者」「第一志望ではないが入学したい者(行きたい大学)」「入学したくない者(不本意入学)」の

3群で比較し、「第一志望ではないが入学したい者」と「入学したくない者」間でもGPAに違いが見られると報告しており(雨森, 2015)、大学志望度が入学後の成績に影響を与えることが推察できる。

また、入学した大学に対する本意度(満足度)はアイデンティティ(自我と社会性)確立度と関連することが示唆されている。竹内が4年制大学の社会科学系学部1年生を対象に行った調査によると、不本意入学者は本意入学者より自我や社会性の確立度が低いことが示されている(竹内, 2022)。さらに、こうした不本意入学者たちが抱えるコンプレックスは、大学生活だけでなく、卒業後の仕事、恋愛・結婚、育児においても影響を及ぼすことが示唆されている(宮田, 2015)。

2 目的

前述の通り、入学した大学に対する志望度や本意度は、大学での学びやその後の人生にも影響を及ぼす可能性が指摘されている。従って、志望度や本意度が低い者たちの実像を把握することは、大学教育において意義があると考えられる。また、これまでに不本意入学者の特徴を分析した研究は多くあるが、入学しなかった者も含めた志願者全体における大学志望度に関する調査報告は、管見の限り見当たらない。本研究では、調査対象を志願者全体に拡大し、高知大学志願者を「第一志望者」と「第一志望ではない者」間で比較することにより、第一志望ではない志願者の志望大学選択に関する特徴を明らかにする。

3 方法

3.1 調査方法

調査対象は、高知大学全 6 学部の 2025 年度入試における志願者 3,447 名（総合型選抜・学校推薦型選抜 803 名、一般選抜（前期日程）1,663 名、一般選抜（後期日程）981 名。延べ人数）とした。調査はインターネット出願のシステムを通じて、出願情報の入力後にアンケート調査として実施した。設問は全部で 13 項目あるが、本研究ではそのうちの 6 項目「あなたにとって高知大学（学部学科課程など）は志望大学の 1 つですか」「進学する大学を選ぶ際に、重視することは何ですか」「様々な大学の情報を収集するために、以下の方法をどの程度利用しましたか」「あなたが参加したオープンキャンパスを教えてください」「高知大学の以下の内容について、十分な情報が得られましたか」「高知大学への出願に対し『一番の相談者』はどなたでしたか」を分析に用いた。本アンケート調査は出願サイトに連動するため記名式だが、氏名や受験番号など個人を特定する情報は分析の際に削除している。また、回答必須項目は本研究への参加同意を確認する項目のみで、他の設問項目はすべて任意回答とした。なお、本研究は高知大学学び創造センター学び創造会議が行う倫理審査の承認（承認番号：R06-01A）を受けている。

3.2 分析方法

3.2.1 対象者

分析対象者は、本研究への参加に同意した者 2,701 名のうち、設問「あなたにとって高知大学（学部学科課程など）は志望大学の 1 つですか」への回答者 2,547 名とした。3 個の選択肢における各回答数は、「第一志望だ」が 1,862 名、「第一志望ではないが志望大学の 1 つだ」が 667 名、「志望大学ではない」が 18 名だった。本研究では「第一志望であるかどうか」に着目し分析するため、選択肢のうち「第一志望ではないが志望大学の 1 つだ」と「志望大学ではない」の回答を「第一志望ではない」にまとめ、「第一志望だ（以下、第一志望者）」と「第一志望ではない（以下、第一志望ではない者）」の 2 群に分類した。分析対象者 2,547 名の各選抜区分（総合型選抜・学校推薦型選抜、一般選抜前期日程、一般選抜後期日程）における「第一志望者」と「第一志望ではない者」の人数を表 1 に示す。本研究の参加同意者 2,701 名及び分析対象者 2,547 名は、いずれも延べ人数で、同一人物が複数の選抜に出願している場合は複数の回答としてカウントした。

なお、本研究では総合型選抜と学校推薦型選抜はい

ずれも合格した場合に入学を確約する選抜であることから、1 つの選抜区分としてまとめて分析を行った。分析には IBM SPSS Statistics (ver.31) を用いた。

表 1 各選抜の第一志望者・第一志望ではない者の数

	第一志望者	第一志望ではない者	合計
総合型選抜・学校推薦型選抜	661 (95.9%)	28 (4.1%)	689 (100.0%)
一般選抜（前期日程）	998 (79.0%)	265 (21.0%)	1263 (100.0%)
一般選抜（後期日程）	203 (34.1%)	392 (65.9%)	595 (100.0%)
合計	1862 (73.1%)	685 (26.9%)	2547 (100.0%)

3.2.2 進学する大学を選ぶ際に重視すること

設問文「進学する大学を選ぶ際に、重視することは何ですか」について、14 個の選択肢のうち重視する上位 5 つまでと下位 5 つまでの回答を求めた。選択肢の詳細を表 2 に示す。回答は「上位 5 つ：1 点、選択しなかったもの：0 点、下位 5 つ：-1 点」とし、各選択肢のスコアを第一志望者と第一志望ではない者の 2 群間で比較した。14 個の選択肢を 1 つも選択しなかった者は、「回答の意思がなかった（回答拒否）」もしくは「いずれの選択肢も同程度に重視した」とも考えられる。本研究では、各選択肢の重視度も比較するために、少なくとも 1 つ以上を選択回答した者のみを分析対象とし、1 つも選択しなかった者は分析から除外した。分析には Mann-Whitney の U 検定を用いた。なお、*p* 値の算出にはモンテカルロ法（サンプリング数：10,000 回、信頼区間 99%）を採用し、有意水準は 0.01（1%）とした。

3.2.3 様々な大学の情報を収集する方法

設問文「様々な大学の情報を収集するために、以下の方法をどの程度利用しましたか」の各質問項目「大学ホームページ」「大学パンフレット」「大学の SNS」「大学の模擬授業や説明会」「進学情報サイトや冊子」「オープンキャンパス」に関して、5 段階（かなり利用する、やや利用する、どちらともいえない、あまり利用しない、全く利用しない）で回答を求めた。回答は「かなり利用する：5 点、やや利用する：4 点、どちらともいえない：3 点、あまり利用しない：2 点、全く利用しない：1 点」とし、各質問項目のスコアを第一志望者と第一志望ではない者の 2 群間で比較した。分析には Mann-Whitney の U 検定を用いた。なお、*p* 値の算出にはモンテカルロ法（サンプリング数：10,000 回、

表2 進学する大学を選ぶ際に重視すること

	第一志望者 平均値 (標準偏差) (N=1857)	第一志望ではない者 平均値 (標準偏差) (N=682)	p値*
入試方法や受験科目	0.42 (0.79)	0.51 (0.74)	*
入試難易度 (倍率や偏差値)	0.35 (0.79)	0.56 (0.71)	*
学問内容	0.74 (0.52)	0.71 (0.56)	0.359
研究内容	0.40 (0.69)	0.41 (0.70)	0.590
カリキュラムや学び方	0.42 (0.68)	0.27 (0.70)	*
取得できる免許・資格	0.26 (0.76)	0.14 (0.79)	*
留学支援・国際交流	-0.45 (0.68)	-0.48 (0.66)	0.370
施設・設備	-0.14 (0.73)	-0.09 (0.74)	0.085
就職・進路状況	0.05 (0.73)	0.05 (0.75)	0.974
サークル活動・部活動	-0.41 (0.72)	-0.45 (0.68)	0.270
歴史・伝統	-0.62 (0.53)	-0.69 (0.51)	*
キャンパス・学生の雰囲気	-0.08 (0.76)	-0.18 (0.72)	*
キャンパスの立地・周囲の環境	-0.26 (0.77)	-0.08 (0.79)	*
学費・奨学金	-0.13 (0.79)	-0.18 (0.76)	0.233

*Mann-WhitneyのU検定 (モンテカルロ法, 10,000回試行), * $p < 0.01$

信頼区間 99%) を採用し, 有意水準は 0.01 (1%) とした。

3.2.4 オープンキャンパスへの参加

設問文「あなたが参加したオープンキャンパスを教えてください (単一回答)」の 4 個の選択肢「高知大学のオープンキャンパス」「高知大学及び他大学のオープンキャンパス」「他大学のオープンキャンパス」「参加していない」への回答分布を, 第一志望者と第一志望ではない者の 2 群間で比較した。分析には χ^2 検定を用いた。有意水準は 0.01 (1%) とした。

3.2.5 高知大学の情報が得られたか

設問文「高知大学の以下の内容について, 十分な情報が得られましたか」の各質問項目に関して, 4 段階 (十分に情報を得た, やや情報を得た, あまり情報を得られなかった, 全く情報を得られなかった) で回答を求めた。質問項目の詳細を表 3 に示す。回答は「十分に情報を得た: 4 点, やや情報を得た: 3 点, あまり情報を得られなかった: 2 点, 全く情報を得られなかった: 1 点」とし, 各質問項目のスコアを第一志望者と第一志望ではない者の 2 群間で比較した。分析には Mann-Whitney の U 検定を用いた。なお, p 値の算出にはモンテカルロ法 (サンプリング数: 10,000 回, 信頼区間 99%) を採用し, 有意水準は 0.01 (1%) とした。

3.2.6 高知大学への出願に対し「一番の相談者」

設問文「高知大学への出願に対し『一番の相談者』

はどなたでしたか (単一回答)」の 6 個の選択肢「自分だけで決めた」「高校の教員」「塾・予備校のチューター等」「家族・親類」「友人・先輩」「その他」への回答分布を, 第一志望者と第一志望ではない者の 2 群間で比較した。分析には χ^2 検定を用いた。有意水準は 0.01 (1%) とした。

4 結果

4.1 進学する大学を選ぶ際に重視すること

設問文「進学する大学を選ぶ際に, 重視することは何ですか」のスコアは, 「入試方法や受験科目」「入試難易度 (倍率や偏差値)」「キャンパスの立地・周囲の環境」において, 第一志望ではない者が第一志望者より有意に高かった (表 2)。一方, 「カリキュラムや学び方」「取得できる免許・資格」「歴史・伝統」「キャンパス・学生の雰囲気」においては, 第一志望ではない者が第一志望者より有意に低かった (表 2)。また, 第一志望者と第一志望ではない者の両群共に, 最も高いスコア平均値は「学問内容」であり, 最も低いスコア平均値は「歴史・伝統」だった (表 2)。

4.2 様々な大学の情報を収集する方法

設問文「様々な大学の情報を収集するために, 以下の方法をどの程度利用しましたか」のスコアは, 「大学ホームページ」「大学パンフレット」「大学の SNS」「大学の模擬授業や説明会」「オープンキャンパス」において, 第一志望ではない者が第一志望者より有意に低かった (表 4)。また, 第一志望者と第一志望ではない者の両群共に, 最も高いスコア平均値は「大学ホー

表3 高知大学の情報が得られたか

	第一志望者 平均値(標準偏差), N	第一志望ではない者 平均値(標準偏差), N	p値*
入試方法や受験科目	3.76(0.45), 1834	3.58(0.55), 676	*
入試難易度(倍率や偏差値)	3.66(0.51), 1842	3.56(0.55), 678	*
学問内容	3.61(0.54), 1840	3.36(0.61), 674	*
研究内容	3.36(0.65), 1815	3.16(0.68), 672	*
カリキュラムや学び方	3.46(0.62), 1830	3.19(0.67), 667	*
取得できる免許・資格	3.45(0.69), 1820	3.16(0.79), 663	*
留学支援・国際交流	2.81(0.85), 1826	2.62(0.84), 665	*
施設・設備	3.18(0.73), 1817	2.96(0.76), 665	*
就職・進路状況	3.32(0.68), 1799	3.03(0.77), 657	*
サークル活動・部活動	2.98(0.81), 1826	2.73(0.87), 664	*
歴史・伝統	2.79(0.83), 1814	2.56(0.86), 659	*
キャンパス・学生の雰囲気	3.11(0.78), 1817	2.70(0.83), 662	*
キャンパスの立地・周囲の環境	3.48(0.64), 1827	3.17(0.75), 668	*
学費・奨学金	3.28(0.74), 1822	2.99(0.82), 664	*

*Mann-WhitneyのU検定(モンテカルロ法, 10,000回試行), * $p < 0.01$

ムページ」で、最も低いスコア平均値は「大学のSNS」だった(表4)。第一志望ではない者のスコア平均値は「大学のSNS」が2.776、「大学の模擬授業や説明会」が2.782であり、小数第3位以下を考慮した結果とした。

4.3 オープンキャンパスへの参加

設問文「あなたが参加したオープンキャンパスを教えてください」の各選択肢への回答分布において、第一志望者と第一志望ではない者間に有意な関連が認められた($\chi^2(3)=251.088, p < 0.01$) (表5)。残差分析の結果、第一志望ではない者は第一志望者に比べて、「他大学のオープンキャンパス」もしくは「参加していない」を選択した割合が高かった。

4.4 高知大学の情報が得られたか

設問文「高知大学の以下の内容について、十分な情報が得られましたか」のスコアは、すべての質問項目において、第一志望ではない者が第一志望者より有意に低かった(表3)。また、第一志望者と第一志望ではない者の両群共に、最も高いスコア平均値は「入試方法や受験科目」であり、最も低いスコア平均値は「歴史・伝統」だった(表3)。

4.5 高知大学への出願に対し「一番の相談者」

設問文「高知大学への出願に対し『一番の相談者』はどなたでしたか」の各選択肢への回答分布において、第一志望者と第一志望ではない者間に有意な関連が認められた($\chi^2(5)=23.675, p < 0.01$) (表6)。残差分析

の結果、第一志望ではない者は第一志望者に比べて、「高校の教員」もしくは「塾・予備校のチューター等」を選択した割合が高かった。

5 考察

5.1 進学する大学を選ぶ際に重視すること

進学する大学を選ぶ際に重視することとして、第一志望者も第一志望ではない者も共に「学問内容」を最も重視しており、両群間に有意差はなかった。しかし、「カリキュラムや学び方」「取得できる免許・資格」「歴史・伝統」「キャンパス・学生の雰囲気」に関しては、第一志望ではない者が第一志望者より重視しない傾向にあり、第一志望ではない者は学問内容にはこだわるが、カリキュラムや学び方といった学びの詳細についてはそれほど重視していないことが推察できる。一方、「入試方法や受験科目」「入試難易度(倍率や偏差値)」「キャンパスの立地・周囲の環境」に関しては、第一志望ではない者が第一志望者より重視する傾向にあり、第一志望ではない者は合格の可能性だけでなく、自身が居住することになる地域や環境も重視することが示唆される。

5.2 様々な大学の情報を収集する方法

様々な大学の情報を収集する方法として、第一志望者も第一志望ではない者も共に「大学ホームページ」を最も活用することがわかった。両群の比較では、調査した6項目のうち「進学情報サイトや冊子」を除く5項目において、第一志望ではない者は第一志望者より利用しないことを示していた。これらの結果は、

表4 様々な大学の情報を収集する方法

	第一志望者 平均値 (標準偏差), N	第一志望ではない者 平均値 (標準偏差), N	p 値*
大学ホームページ	4.64(0.62), 1839	4.39(0.83), 676	*
大学パンフレット	4.00(1.15), 1856	3.49(1.25), 681	*
大学のSNS	3.24(1.31), 1844	2.78(1.33), 675	*
大学の模擬授業や説明会	3.43(1.30), 1832	2.78(1.27), 674	*
進学情報サイトや冊子	4.25(1.03), 1851	4.31(1.05), 681	0.052
オープンキャンパス	3.65(1.38), 1844	3.02(1.37), 681	*

*Mann-WhitneyのU検定 (モンテカルロ法, 10,000回試行), * $p < 0.01$

表5 オープンキャンパスへの参加

	高知大学の オープンキャンパス	高知大学及び 他大学の オープンキャンパス	他大学の オープンキャンパス	参加していない	合計
第一志望者	505 (27.7%)	279 (15.3%)	437 (24.0%)	600 (32.9%)	1821 (100.0%)
第一志望 ではない者	20 (3.0%)	50 (7.4%)	286 (42.5%)	317 (47.1%)	673 (100.0%)

$\chi^2(3) = 251.088, p < 0.01$

表6 高知大学への出願に対し「一番の相談者」

	自分だけで 決めた	高校の教員	塾・予備校の チューター等	家族・親類	友人・先輩	その他	合計
第一志望者	157 (8.6%)	700 (38.3%)	163 (8.9%)	735 (40.3%)	69 (3.8%)	2 (0.1%)	1826 (100.0%)
第一志望 ではない者	49 (7.3%)	320 (47.6%)	64 (9.5%)	227 (33.8%)	12 (1.8%)	0 (0.0%)	672 (100.0%)

$\chi^2(5) = 23.675, p < 0.01$

第一志望ではない者は第一志望者と比較して、大学の情報収集にそれほど熱心ではないことを示唆している。

また「進学情報サイトや冊子」に関しては、両群間に有意差は見られなかったものの第一志望ではない者が第一志望者より高いスコア平均値を示しており、第一志望ではない者の平均値は「大学ホームページ」に次いで2番目に高かった。4.1で示した、第一志望ではない者は進学する大学を選ぶ際に「入試方法や受験科目」「入試難易度(倍率や偏差値)」を重視するという結果も考慮すると、第一志望ではない者の情報の入手先は、大学ホームページや進学サイト・冊子に偏ると推察できる。

5.3 オープンキャンパスへの参加

オープンキャンパスへの参加は、第一志望ではない者は第一志望者に比べて、他大学のオープンキャンパスに参加した者及び(他大学・高知大学共に)オープンキャンパスに参加していない者の割合が高かった。ここで気になるのは、第一志望ではない者の47.1%

が、本学だけでなく他大学のオープンキャンパスにも参加していないという事実である。オープンキャンパスは、大学での学び(模擬授業)を体験するだけでなく、大学生や教員との接触から大学の雰囲気を感じ取る貴重な機会であるが、第一志望ではない者の半数近くがこうした機会を得ていないことになる。これは第一志望ではない者は進学する大学を選ぶ際に「カリキュラムや学び方」「キャンパス・学生の雰囲気」を第一志望者ほど重視しない分析結果とも合致しており、第一志望ではない者は大学選択に対する関心自体が薄い可能性を示唆している。

一方で、第一志望者についても32.9%がオープンキャンパスに参加していないという結果が示された。オープンキャンパスに参加しない者の属性として、選抜区分による差異があるのか、もしくは特定の学部偏在するのかなど、詳細な分析が必要である。

5.4 高知大学の情報が得られたか

「高知大学の情報が得られたか」の設問に関しては、すべての質問項目において、第一志望ではない者は第

一志望者と比較して情報を得ていないことがわかった。つまり、第一志望ではない者は、そもそも高知大学の情報を十分に得ていないため、高知大学が第一志望になりうるのかどうかを十分に吟味すらできていないことを示唆している。本来、出願する大学を決める際には、候補となる大学・学部等を十分に調査し、可能ならばオープンキャンパスや説明会に参加して最終的な出願大学を決定すると考える。しかし本学における第一志望ではない者は、本学に関する十分な情報を得ておらず、情報収集の過程が十分に行われていないと推察できる。

この要因として、入試の過密なスケジュールが考えられる。今調査では、第一志望ではない者の約96%が一般選抜志願者であり、分析結果は一般選抜志願者における第一志望ではない者の特徴を示しているとも考えられる。一般選抜の志願者は、大学入学共通テストの自己採点結果を考慮し出願大学を最終決定するが、大学入学共通テスト後のわずか一週間あまりで出願大学を選択し決定しなければならない。この際に、出願を予定していた（第一志望だった）大学を変更せざるをえなかった者が、十分な大学情報を得ないままに本学に出願した可能性が考えられる。これは裏を返せば、より多くの情報を得ればより志望度が高くなる可能性も秘めている。出願後もしくは合格・入学した直後に、大学について多くを知れば、入学した大学に対する志望度・本意度（満足度）も向上するのかもしれない。

5.5 高知大学への出願に対し「一番の相談者」

第一志望ではない者は第一志望者に比べて、出願の際に高校教員もしくは塾・予備校のチューター等に相談する割合が高かった。第一志望ではない者の約96%が一般選抜志願者であることから、出願大学を大学入学共通テスト後の短期間に再検討するにあたり、相談相手として受験のスペシャリストである高校・予備校等の教員を最も頼りにした結果だと推察できる。そしてこの結果は、先に第一志望ではない者の特徴として述べた「入試方法や入試難易度（倍率や偏差値）を重視し、情報は進学サイトより得る」と興味深いつながりを見せる。つまり教員の立場から考えると「第一志望は無理でも、大学には合格させてあげたい」という心理が働き、必然的に入試方法や難易度を根拠に合格の可能性が高い大学を勧める進路指導がなされたと想像できる。こうした高校現場の進路指導状況やその背景については多くの報告がなされている（竹内、2022）。また入学後の調査によると、出願校を決めた

理由として「確実に合格したかった」を選ぶ割合は、大学不満足者が満足者より高い、という興味深い報告もある（竹内、2021）。

6 結語

本研究では、高知大学志願者を「第一志望者」と「第一志望ではない者」間で比較することにより、第一志望ではない志願者の志望大学選択に関する特徴を分析した。分析の結果、本学を第一志望としない志願者は、出願する大学を選ぶ際に「入試方法・難易度を重視し、情報は進学サイトより得るが高知大学の情報は第一志望者ほど得ておらず、出願大学は教員に相談して決定する」ことがわかった。その背景として、本学を第一志望としない志願者の約96%が一般選抜志願者であったことから、共通テスト後の過密なスケジュール下で、合格の可能性を第一に考えた大学選択行動がなされたと推察できる。第一志望ではない者は、出願に際して本学の情報を第一志望者ほど十分に得ていなかったことから、より多くの情報を得れば志望度が高くなる可能性も秘めている。

また、本学を第一志望としない志願者は、志望大学の選択に関して「学問内容は重視するが、カリキュラムなど学びの詳細は第一志望者ほど重視せず、オープンキャンパスには半数近くが参加しない」ことがわかった。その要因として、第一志望ではない志願者には、大学を学問領域（学部）で選択し、その学問が学べれば大学はどこでも良いとする者が存在する可能性も考えられる。例えば、医学系や教員養成系など資格取得を目的とする学部はこれに該当するのかもしれない。今後は、志願者が実際にどの学部を志望していたかを精査する必要がある。一方で、大学はどこでも良いとする者には“大学の進学自体に後ろ向きな者”を含む可能性も否定できない。冒頭で述べたように、こうした入学者は転学・退学のリスクを抱えることが示されているため、入学後の動向を注視し追跡調査する必要がある。

本研究では、総合型選抜、学校推薦型選抜及び一般選抜の志願者を調査対象としたが、例えば総合型選抜と一般選抜の併願者（重複者）を延べ数としてカウントし分析している。そのため、第一志望者の数が実数よりも多くなることが想定されるため、重複者を除外し分析した場合は、異なる傾向が見られる可能性もある。今後は、選抜区分ごとに第一志望者と第一志望ではない者間の比較分析を実施するなど、詳細な検証が必要である。

7 おわりに

最後に、本研究は第一志望ではない志願者の特徴を分析・報告したが、高校・予備校での進路指導の現状も含めこれらの是非を問うものでは決してない。課題とすべきは、こうした第一志望ではなく場合によっては“不本意で出願・入学してくる学生”の心情やその背景を理解し、出願後・入学後に如何に転学・退学のリスクを減らすかにあると考える。その一助として、本稿が参考になれば幸いである。

参考文献

- 雨森聡 (2015). 「不本意入学の学修への影響—これまで
の不本意入学は本当に不本意なのか—」『大学入試研
究ジャーナル』 **25**, 111-116.
- 樋口健 (2013). 「大学1年生の転学・退学の意向とその
処方箋」ベネッセ教育総合研究所
<https://benesse.jp/berd/berd/focus/4-koudai/activity3/>
(2025年4月23日).
- 宮田かな恵 (2015). 「大学受験期における困難感の対処
プロセスの検討及び不本意入学がその後の人生に与え
る影響」『早稲田大学人間科学学術院人間科学研究』
28(1), 90.
- 竹内正興 (2021). 「センター試験後に出願校を変更した
受験生の大学入学満足度—国立B大学の事例より—
」『大学入試研究ジャーナル』 **31**, 97-104.
- 竹内正興 (2022). 『不本意入学になる人とならない人の
分岐点—第一志望でなければ不本意なのか—』広島大
学出版会.